

I 教育目標及び目指す子ども像

教育目標

心豊かに いきいきと 心身ともに たくましく育つ子

育みたい資質・能力

「知識及び技能の基礎」

遊びや生活の中で、人やものと関わったり、ICT 機器を使用したりしながら、豊かな直接体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かったり、できるようになる。

「思考力、判断力、表現力等の基礎」

遊びや生活の中で、人やものと関わり、興味や関心をもち、そこで気づいたことや考えたことを試したり工夫したり、表現したりする。

「学びに向かう力、人間性等」

遊びや生活の中で、ICT 機器も活用しながら、また、人と意見を交流しながら、自ら積極的に、より多くのことに興味・関心を持ち、進んで取り組もうとする。

目指す子ども像

・夢中になって、最後までやりきろうとする子ども

・感動したり、共感したりする心が育つ子ども

・自分の思いを言葉や体や ICT 機器を使って表現し、相手に伝えようとする子ども

・やさしさや思いやりの気持ちをもち、全ての生き物の命を大切にしようとする子ども

・様々な喜びや感動、困難や葛藤を繰り返しながら、最後まであきらめずにやり抜く子ども

2 幼稚園経営方針(目指す教職員像・目指す幼稚園像)と具体的取組

目指す幼稚園像

- ・園児が楽しく、安心して通える幼稚園
- ・美しく、安全な保育環境が整えられた幼稚園
- ・保護者から信頼される幼稚園
- ・地域の心の拠り所となる幼稚園
- ・地域や関係機関との連携を大切にした幼稚園
- ・ICT 環境が整備され次代に適応した環境がある幼稚園
- ・地域の就学前施設や小学校と連携し、かけ橋期(5歳児・小学校1年生)の子どもたちに学びや生活の基盤をつくる幼稚園

目指す教職員像

- 1.「すべては子どものために」を信条に、熱い思いをもち、初心を忘れず意欲的に教育活動を進める教職員
- 2.「自らが高まることは、子どもが高まること」を信条に、あらゆる機会をとらえて自己研鑽し、その成果を教育活動に生かそうとする教職員
- 3.「子どもにとってはどうか?」をすべての基本の考え方として、子ども一人一人の持つ力や可能性を引き出すために、保護者、地域と共に教育活動を進めようとする教職員。
- 4.「整った教育環境は教育の出発点」として、美しい場づくりや保育環境・IC 機器の活用等の環境づくりに努める教職員。
- 5.「教職員は子どものモデルである」を信条に、服装、態度、言葉使い等に気を配り、けじめをもって活動し、社会人として、公務員として、自覚をもって生活する教職員。
- 6.「かけ橋期の子どもたちに学びや生活の基盤をつくるために」地域の就学前施設や小学校と連携し、積極的に交流を進める教職員。

具体的な取組

- 1 については、教育のスペシャリスト。プロの教師として、長年培ってきた保育経験を活かし
その事が子どものためが主なのか他の理由が主なのかを常に判断の基準として教育活動に邁進する事を意味している。常日頃からの意識を当然のように持ち続けてもらいたい。
- 2 については、幅広い知識や経験を持って保育に臨むために、最新の教育情報や考え方を保育技術の獲得のために研修する事は勿論、私生活においても様々な知識を吸収し、積極的に保育に活かせるよう「このアイデアを使おう。このことは園児に経験させてやりたい。」と言った意識を持ち、アンテナを張り巡らせて日々の生活を営んでいく。
- 3 についてはいつも子ども一人一人の様子を把握しながら、その子の持つ可能性を探り、導き出すことを信条として職務に邁進する。得意なことが見つかることでその子の自尊感情の高まりや、持てる力を伸ばすことにつながり、やがてその事が就学後の教科学習の伸び、すなわち見える学力を伸ばすことに発展していく。
- 4 については園内の環境美化や様々な遊びに対応した環境構成を大切にし、ICT機器が日常的に園児の周りに存在し、園児自身がそれらを使って様々な遊びを工夫できる条件整備に努める。
- 5 については公教育に携わる教育公務員としての自覚の元、常日頃から丁寧な言葉遣い。誰に対しても丁寧な対応を心掛ける。また行動や服装や信条において職場だけでなく日常生活においてもそのことを意識して生活する。
- 6 については、お互いの教育・保育への理解を深めるため、交流の機会(参観や幼保小接続会議など)をもち、お互いの保育・教育のねらいや支援などを話し合う。

3 幼稚園教育の計画(重点目標と具体的取組)

<p>① 保育全般に関する重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然とのかかわりの中で豊かな心を育む 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動植物との触れ合いやかかわりを通して心を動かし、気づいたり考えたりする子どもたちの育ちをエピソードや研究保育から学ぶ。 ・昨年度に引き続き、ICTを保育の中で活用し、子どもたちの興味・関心の姿に応じて準備したり、いつでも使えるように設置したりする。
<p>② 健康・安全に関する教育の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味関心をもち、思い切り心と体を動かし、遊ぶ楽しさを味わう。 ・遊びや生活を通して、園生活での安全な過ごし方を知る。 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自ら、心や体を動かしやってみたくなる環境を構成する。ICT 機器も活用し、自分の姿を客観的に見たり映像を通して刺激を受けたりし、更に遊びや生活がより豊かになっていけるように活用していく。 ・遊びや生活の中で安全に遊ぶ方法を伝えたり、子どもたちが自ら考えたりできるように関わっていく。
<p>③ 人間関係に関する教育の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達や園の仲間と共に過ごすことを楽しみ、自分を大切にするとともに友達の気持ちに気づいたり考えたりする。 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の中の様々な場面で、子どもたち自身が安心して生活し、自己肯定感をもって生活していくようかかわるとともに、クラスや園の仲間と一緒に遊んだり生活したりすることを楽しいと感じられるような保育を工夫する(異年齢のペア活動の導入・一斉の活動の内容を工夫・当番活動など) ・自分の思いを様々な方法で相手に伝えたり、相手の思いを理解させたりするために、保育者が必要な援助を行う。 ・積極的に地域行事に参加し、地域の人とつながり、支えてもらっていることを意識できるようにする。
<p>④ 環境に関する教育の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの様々な物事に心を動かし、夢中になって遊ぶ楽しさを味わう。 ・心と体を動かす体験を重ねたり、ICT 機器の活用を通して、より遊びを広げたり深めたりする。 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたち自ら、知りたくなる、伝えたくなるような環境を構成し、遊びを進めたり、友達と思いを共有したりする楽しさを教師も共感しながらかかわる。 ・実際に触れる、見るなどの体験ができるようにしたり、子どもたちの興味が深まるような ICT 機器を活用したりしていく。

<p>⑤ 言葉に関する教育の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な言葉に触れながら、自らも話す喜びを味わったり、相手の言葉に興味をもって聞こうとしたりする。 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常の保育の中で子どもたち同士の遊びの相談や思いの伝えあいを支え、言葉でのやりとりを楽しんでいけるようにする。 ・降園時の1日の振り返りの場などで、意図的に話し合う場面を設け、子ども達が自分の言葉で、相手に対して自分の思いを伝えるようにしていく。 ・語彙を増やすための意図的な言葉かけを教職員が意識する。また、丁寧で美しい言葉に触れられるよう教師が意識して言葉を使っていく。 ・様々な絵本やお話を親しみ、言葉の楽しさや豊かさを味わえるようにする。
<p>⑥ 表現に関する教育の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な方法や様々な手段を通して、自分の思いを伸び伸びと表現できるようにする。 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを伸び伸びと安心して表現できる楽しさを感じられるよう、教師は子どもの心に寄り添い、お互いの存在を認められるようなクラスの雰囲気づくりをする。 ・言葉や歌、踊りや絵画、製作等、様々な表現を通して、自分を表す気持ちを高め、表出できるように活動を工夫する。
<p>⑦ 道徳教育（規範意識）に関する重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な命に気づき、思いを寄せたり大切にしようとしたりする。 ・友達や地域の人とのかかわりのなかで、相手のことも考えて行動できるようにする。 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然（生き物や植物）とかかわる中で、それぞれの命に気づき、大切に思えるよう教師が意識して言葉かけや環境を行い、子どもたちの心の育ちを捉えていく。 ・遊びの中での友達とのかかわりや幼小交流、幼保交流、地域の人々との交流など様々な人との関わりを通し、気持ちを寄せてその場に応じた行動ができるなどをを目指す。子どもたち自身が自分で考えられるよう支えたり、保育者が促したりすることで、規範意識を育てていく。
<p>⑧ LD等支援の必要な子どもへの教育の重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な子どもたちが安心して生活し、自分の力を発揮できるようにする ・友達のことを知り、それぞれの持ち味や素敵などころに気づいて生活する。 	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達特性のある園児について、教職員全員でその特性や困り、行動様式などについて理解を深め具体的な支援の在り方を探り実践していく。 ・外部講師の指導や育支援センター等の外部機関、療育施設との連携をこれまで同様大切に進めることで、幼児理解を進め、的確な支援策を学んでいく。 ・発達特性のある園児が園内、学級で安心して生活し、仲間の中で互いに成長していくような他児へのかかわりについても考えていく。

4 重視する取組の重点目標と具体的な取組

<p>① 架け橋期の教育の充実に向けた 幼保小連携・接続に関する重点目標 ・互いの教育・保育への理解を深め、園児も教師も出会いの機会を大切に交流していく。</p>	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校・こども園との交流行事を行う際に、互いのねらい、援助などを明確にしたり、事後の子どもの姿を交流したりする機会をもち、互いの教育・保育への理解を深めていけるようにする。
<p>② 預かり保育に関する重点目標 ・異学年交流により遊びの幅を広げたり、異年齢の友だちへの思いを深めたりしていく。 ・教育課程内の保育とは違う玩具に触れて遊ぶことを楽しんだり、ゆったりと自分の心を整えたりする。 ・保護者が安心して預けられるような子どもたちの居場所を提供する。</p>	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員の積極的な研修 ・管理職の積極的な入り込み ・知育玩具等保育材料の選択精選 ・HPによる保護者への発信 <p>以上のような取組を通して子どもたちにより楽しく安全な保育終了後の遊びの場を提供していきたい。保護者が安心して託せる預かり保育の場を提供したい。</p>
<p>③ 子育ての支援に関する重点目標 ・子育てに不安や悩みを持つ保護者に、より良い子育て子どもへの関わりを伝る。 ・保護者が安心して過ごせる親子の安心安全な居場所の提供。</p>	<p>具体的取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほっこり子育て広場の活用 ・誕生会後の園長カフェの活用 ・未就園クラスの充実 ・3歳児対象ひよこ組の年少クラス化 ・未就園クラスの園行事への参加 <p>以上のような取組を通して子育て支援を行っていきたい。長年の教員経験や自身の子育てで経験したことを次の世代を担う保護者に伝えていきたい。</p>
<p>④ 地域とのかかわり(社会に開かれた教育課程)の重点目標 ・「地域の子は地域で育てる。」この理念の中で、地域の様々な行事や恵まれた自然環境に触れ、自分たちが育つ上賀茂地域に対する郷土愛を持つ。 ・地域の宝として地域の人々に愛され育まれてきた上賀茂幼稚園をその期待に応えられる幼稚園にする。</p>	<p>具体的取組</p> <p>コロナ禍においても可能な限り地域の様々な行事に参加し、恵まれた自然環境や歴史遺産を直接肌で感じる園行事を進めていきたい。その中で、地域の人々との交流や美しい歴史ある街並み、子ども達を心から大切に思う風土それらすべてが、上賀茂幼稚園の保育環境ととらえ、地域と共に歩み続ける上賀茂幼稚園であり続けたい。</p>